

2021 年 10 月 22 日

建設技術展 2021 近畿への出展について

この度、ヒロセグループは 2021 年 10 月 27 日(水)から 28 日(木)までの 2 日間、インテックス大阪 4 号館で開催される「建設技術展 2021 近畿」へ出展いたします。

「建設技術展 2021 近畿」は、新技術・新工法を展示・紹介し、産・学・官の交流を行うことで、技術開発の促進や新技術の積極的な活用を促すことを目的とし、開催されております。

本年度は、ヒロセグループよりヒロセホールディングス(株)、ヒロセ(株)、成幸利根(株)、産業リーシング(株)の 4 社が「環境と働く人への負荷軽減への取組（現場発技術革新）」をテーマに出展いたします。皆様のご来場を、ぜひお待ちしております。

1. 開催内容

主催：日刊建設工業新聞社・一般社団法人近畿建設協会

特別共催：公益社団法人土木学会関西支部

名称：建設技術展 2021 近畿 ええもん”使こて、ええモン創ろ！

<https://www.kyokai-kinki.or.jp/kengi2021/top.html>

会期：2020 年 10 月 27 日(水)～28 日(木) 9:00-17:00(最終日は 16:30 迄)

会場：インテックス大阪 4 号館 (エリア:施工-173)

交通：コスモスクエア駅 3,4 号出口から徒歩 9 分 / 中ふ頭駅 2 号出口から徒歩 5 分

入場料：無料

2. 展示内容

「環境と働く人への負荷軽減への取組（現場発技術革新）」

◆ ヒロセホールディングス(株)

PS-Bridge®

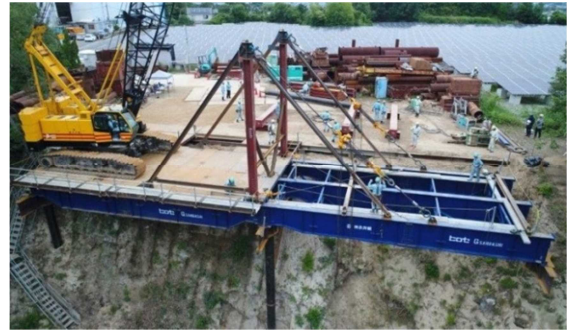
軽量、高速架設、コンパクト収納で早期に交通確保できる緊急復旧橋です。空気膜チューブと鋼製ケーブルにより、低桁高の圧縮桁を空気圧で支持する構造を特徴とし、軽量で、大型重機を使用しないで架設することができます。部材は、ユニット式のボルト接合のため、組立・解体が容易で、繰り返しの利用も可能です。



◆ ヒロセ(株)

HiDo レス工法® (G 栈橋®)

導杭打設を無くし、工期短縮、安全性向上を実現する工法です。導杭機能を G 栈橋と専用の受桁に担わせることで導杭工程を大幅に短縮しました。また上部工には G 栈橋を用いることで最大橋長 14.0m を実現し、長スパン化による杭本数の削減、河積阻害率低減も実現しています。



即結管ベス®

独自の鋼管キャップにより溶接レスで上杭とのジョイントを迅速に行うことができます。機械式継手による溶接レス接合であるため、支持杭(下杭)の施工誤差を上杭で吸収でき、下部工を地組してユニット架設が可能となり工期短縮、安全性向上を実現しました。PG、G 栈橋といった長スパン工法と組み合わせることで杭本数の低減などさらに効果を発揮できます。



ヒロセメガクランプ®

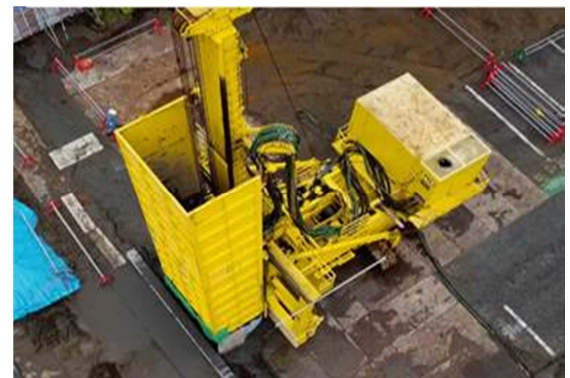
鋼管杭に下部工ユニットを溶接レスで接続できる工法です。ユニット化できるため施工が迅速であり、火気がなく足場も最低限に抑えられ安全性が高くなっています。また、溶接レスのため水中での接続も可能です。



◆ 成幸利根(株)

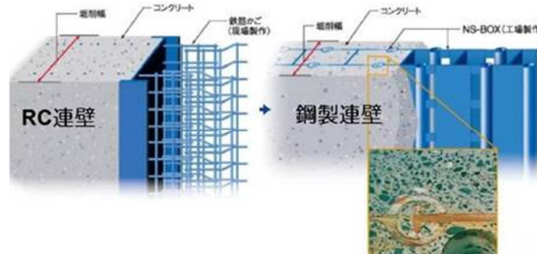
フレックス エコ ウォール®工法

天然粘土鉱物であるベントナイトを主材料とした柔軟性、遮水性、耐久性に優れた粘土型鉛直遮水壁です。TRD 施工機等を用いて、高濃度のスラリー化したベントナイトを注入しながら地盤と混合攪拌し、変形追随性の高いフレキシブルな遮水壁を構築します。阪神大震災クラスの地震にも耐えうるセメント材料を使わない環境にやさしい遮水壁工法です。



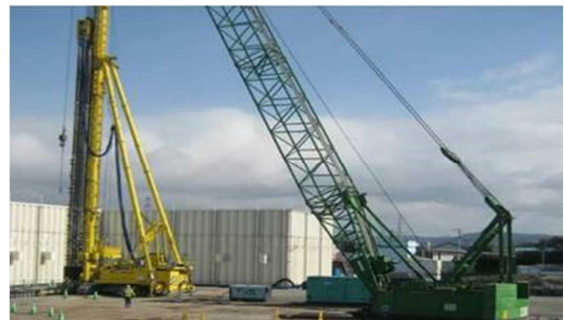
低空頭鋼製地中連続壁工法

深度 100m を超える大深度掘削にも対応できる高剛性の土留壁工法です。工場製作の継手付き応力材を嵌合しながら壁体を構築する工法のため、鉄筋籠を用いる RC 連壁工法の 30%程度の壁厚の薄厚化が可能です。都市部における下水道・鉄道・道路事業など、上空制限下での大深度掘削を伴う場合に高い止水性と高い剛性を持った土留壁兼用の本体構造物としての利用ができる地中連続壁工法です。



Neo-e 工法

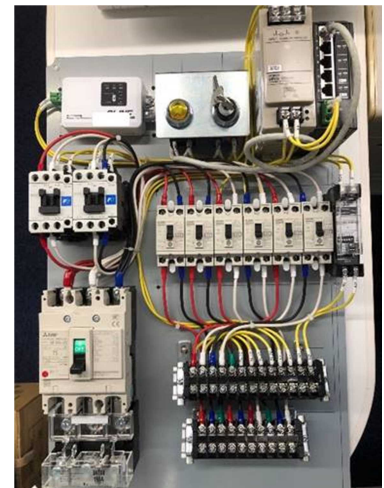
柱列式連続壁工法の流動性保持時間をコントロールすることで、長尺芯材の挿入性と精度を向上させた、泥土低減型高性能ソイルセメント壁工法です。



◆ 産業リーシング(株)

仮設分電盤「ホトラボード」

この仮設分電盤は、電力線通信装置を搭載して建設現場に配置することで、建設生産プロセスに I C T ・ I o T を活用するためのネットワーク環境を構築することが出来ます。推奨する電力線通信は、現状の電力網でネットワーク構築が可能となり、新しいケーブル敷設・アンテナ設置等が不要になります。また無線通信ではないことから、電波が途切れるといった通信不具合の心配もありません。このネットワーク環境を活用することで、I C T 機器の管理や情報の発信、I o T 機器の制御及び監視・データ収集などが可能となり、現場作業の効率化やさらには無人化等も実現できると考えます。



◇お問合せはこちら

ヒロセホールディングス株式会社 企画部門

大井川 [TEL:03-5634-4505](tel:03-5634-4505)

以 上